資料　７－２

県内医師の現況等について

１　医師の偏在

○　県内医師数は増加傾向にあるものの、その増加は都市部等に集中しており、地域間の医師の偏在は解消できていない。

県内には、無医地区が県北部を中心に 53 地区（R7 調査）あるなど，過疎地域における医療の確保は、その提供体制の維持を含めて大きな課題であり、ニーズに応え・地域を支える医療人材の確保と育成を継続して進めていく必要がある。

○　診療科別では、小児科等の医師数（人口比）が全国平均を下回るなど、専門科医の確保・育成も求められる。

【県内医師数の推移（医療施設従事医師数）】（人）

【医師数】	H30	R02	R04	R06	R06-H30
広島県	7,286	7,478	7,525	7,586	＋300
過疎地域（10 市町）	452	447	454	462	＋10
その他	6,834	7,031	7,071	7,124	＋ 290

※過疎地域：管内全域が過疎法指定されている 10 市町
（三次市、庄原市、府中市、安芸高田市、江田島市、安芸太田町、北広島町、大崎上島町、世羅町、神石高原町）

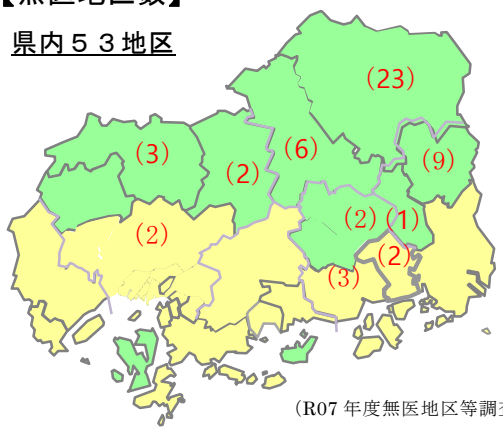
【県内医師数の推移（人口 10 万対）】（人）

【人口比】	H30	R02	R04	R06	R06-H30
広島県	258.6	267.1	272.6	279.5	+20.9
過疎地域（10 市町）	195.1	200.0	210.8	223.3	+28.2
全国	246.7	256.6	262.1	267.4	+20.7

（厚労省「医師・歯科医師・薬剤師調査」）

【無医地区数】

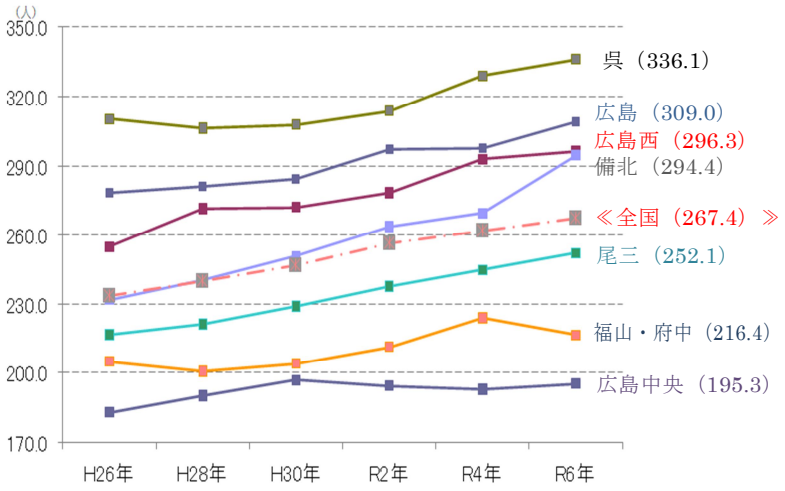
県内５３地区



（R07 年度無医地区等調査）

※無医地区：概ね半径４㎞の区域内に５０人以上が居住している地区で医療機関が無く、かつ、容易に医療機関を利用することができない地区

【二次医療圏医師数の推移（人口 10 万対）】



（厚労省「医師・歯科医師・薬剤師調査」）

【県内医師数（主たる診療科別）】

診療科	県内	人口比（10 万対）			診療科	県内	人口比（10 万対）		
	医師数	広島県	全国	全国との差		医師数	広島県	全国	全国との差
内科	2,994	110.3	97.5	12.8	耳鼻咽喉科	209	7.7	7.6	0.1
外科	707	26.0	22.3	3.7	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	70	2.6	2.5	0.1
産科･産婦人科	263	47.9	50.6	▲ 2.7	放射線科	164	6.0	5.9	0.1
小児科	369	114.8	128.6	▲13.8	麻酔科	251	9.2	8.4	0.8
皮膚科	215	7.9	8.1	▲ 0.2	病理診断	44	1.6	1.8	▲ 0.2
精神科	389	14.3	13.6	0.7	救急科	77	2.8	3.2	▲ 0.4
泌尿器科	178	6.6	6.4	0.2	形成外科	45	1.7	2.6	▲ 0.9
脳神経外科	182	6.7	6.1	0.6	臨床検査	8	0.3	0.5	▲ 0.2
整形外科	537	19.8	18.2	1.6	眼科	309	11.4	10.9	0.5

※R06「医師・歯科医師・薬剤師調査」（厚労省）から広島県作成

（注）算出基礎人口は，総務省人口推計（R6.10.1）による。
「産科・産婦人科」は，15-60 歳未満女性人口との比較による。
「小児科」は，0-15 歳未満人口との比較による。

・内科：内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・腎臓内科・神経内科・糖尿病内科・血液内科・アレルギー・リウマチ・感染症内科　の計
・外科：外科・呼吸器外科・心臓血管外科・乳腺外科・気管食道外科・消化器外科・肛門外科・小児外科　の計

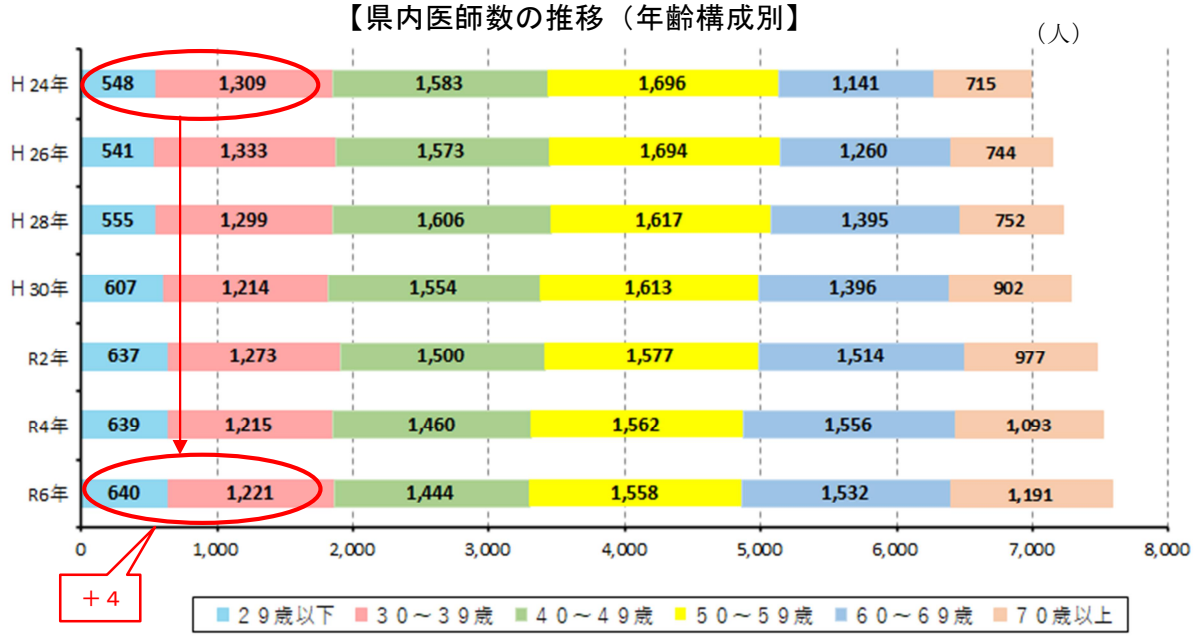
2　若手医師の状況

○ 若手の医師数は横ばいの状況であり、高齢医師の退職者増による将来の県内医師数の減少が懸念される。

○　県内には、医師養成機関が広島大学のみであり，臨床研修医等の若手医師の確保が大きな課題である。

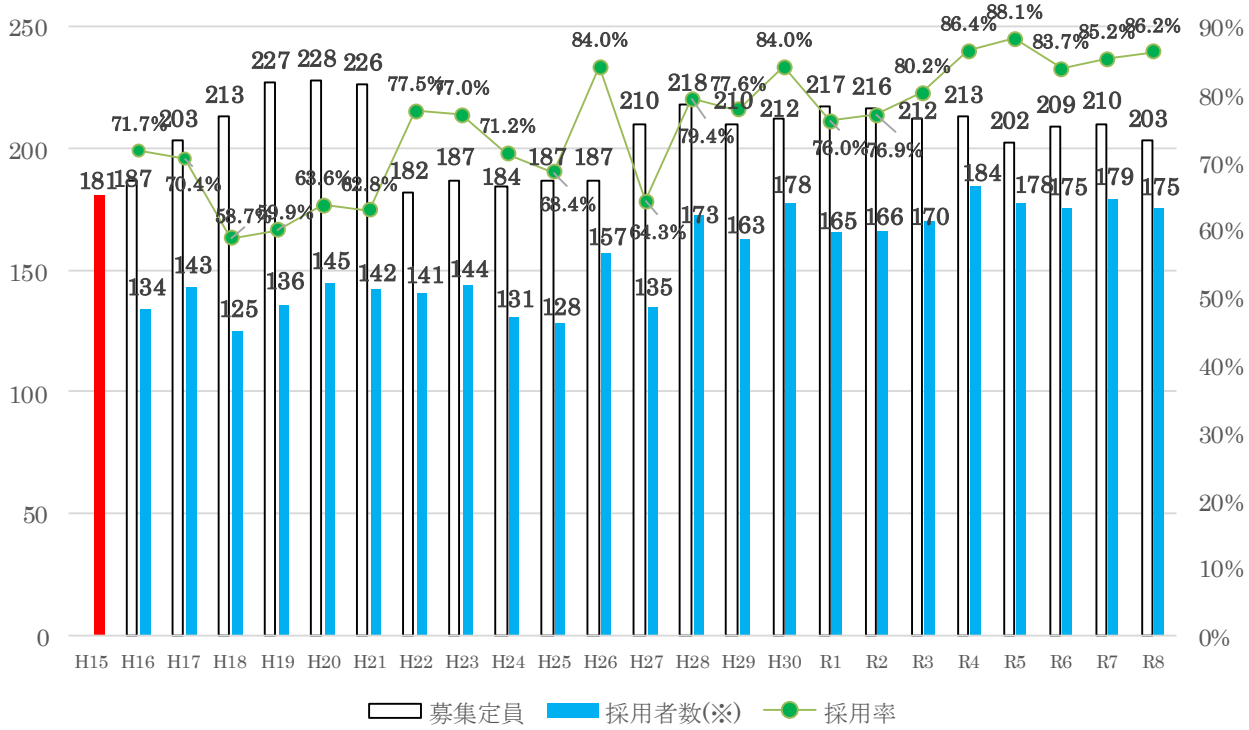
　臨床研修修了後は同じ地域で勤務する医師が多い傾向があり、臨床研修医や専攻医の県内就業が、後の定着にもつながることが期待されるため、県外からの誘致を含めた研修医や専攻医の確保が、将来の県内医療体制を維持するためには重要である。

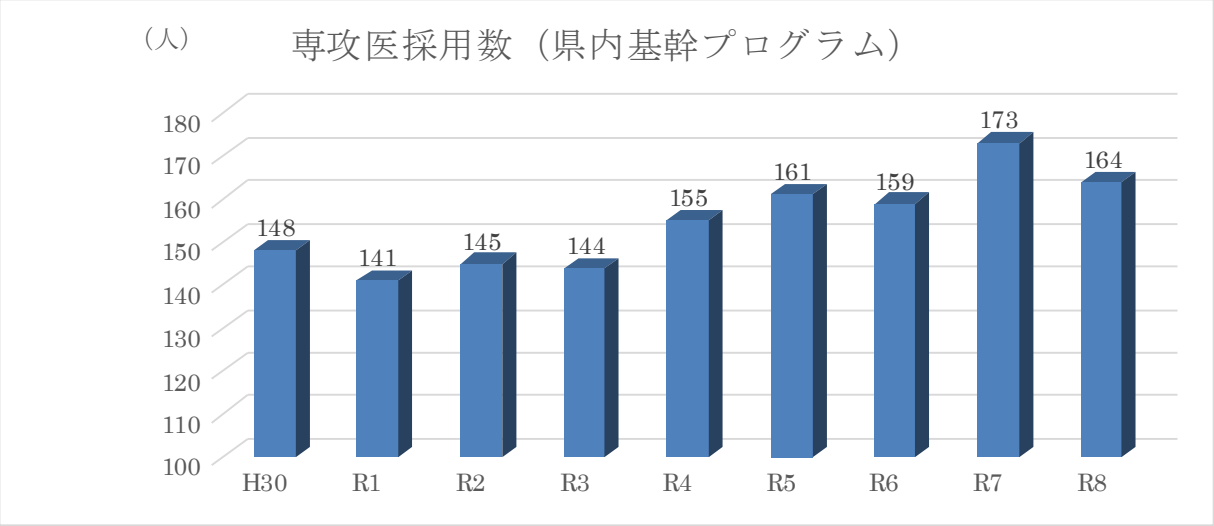
【県内医師数の推移（年齢構成別）】



（厚労省「医師・歯科医師・薬剤師調査」）

初期臨床研修医採用者数の推移（人）





※（一社）日本専門医機構調べ

（参考）

【初期臨床研修終了後の勤務先】

出身地	出身大学	臨床研修病院（全て県内）	卒後３年目勤務先（専攻医としての勤務先）	人数	計
県内	県内	広島県内（県内出身：88 人）	**県内**	**３４人**	●**県内就業** 101 人（74%）
			県外	３人	
	県外		**県内**	**４１人**	
			県外	１０人	●県外へ転出 35 人（26%） うち 福岡県 7 人
県外	県内	広島県内（県外出身：48 人）	**県内**	**８人**	
			県外	３人	
	県外		**県内**	**１８人**	
			県外	１９人	

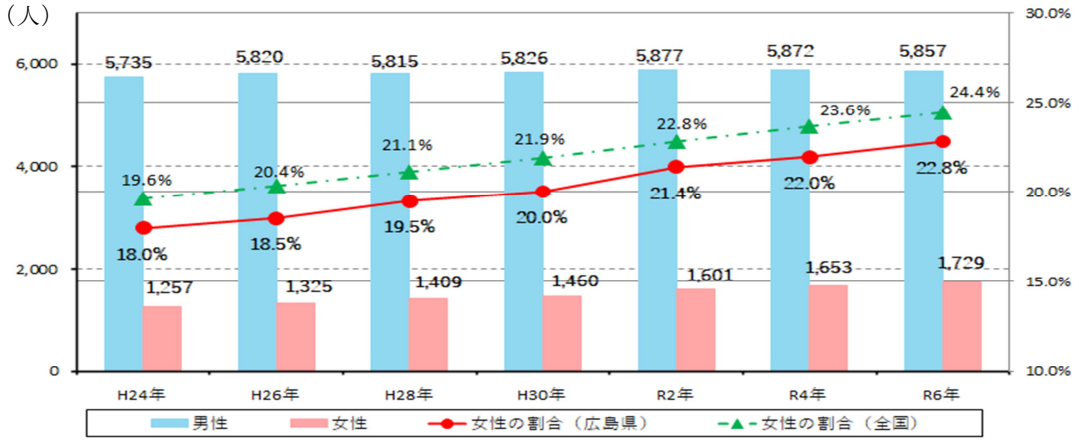
広島県地域医療支援センター「専門研修プログラム選択に関するアンケート調査」（R8 年度）
対象 173 人中 140 人回答（回答率 81%）
うち有効回答 136 人

３　女性医師の増加等

○　医師業務は夜間勤務や長時間勤務が多く、育児・介護等を担うことの多い女性医師は、仕事との両立が難しいことを理由に離職に至るケースも発生している。また、一度離職すると、医療の知識・技術は日進月歩で進むため、医療現場に戻りづらいという業務の特殊性も影響している。

○　県内の医師確保対策を推進していく上では、勤務の内容や環境による影響が大きい女性医師をはじめ、若手医師、高齢医師等を含めて、個別の就労相談等のきめ細やかな対応・支援の重要性が高まっている。

【県内医師数の推移（男女別）】



4　第８次保健医療計画の進捗状況を測る指標

○ 医師数（県内及び過疎地域の 10 万人当たり医療施設従事医師数）は増加しているが、中山間地域における医師の不足感は続いている。

○ 30 歳代までの医療施設従事医師数は、減少傾向にある。

○ 初期臨床研修医のマッチング者数は目標に達していないものの、最終的な初期臨床研修医採用者数は増加傾向がみられており、また、専攻医の採用者数も増加傾向である。

○ ふるさとドクターネット広島の登録者数は増加しており、広島県の地域医療に関心のある医師・医学生への情報発信を行っている。

○ 引き続き、医師の確保を積極的に進め、地域住民が必要に応じて適切な医療が受けられる体制の整備を図っていく必要がある。

【目標（成果指標）】

指標	現状値（計画策定時）	目標値	R7 年度実績
10 万人当たり 医療施設従事医師数	(R2) 267.1 人	(R8) 269.3 人以上	[R6.12 月末時点] 279.5 人
過疎地域の 10 万人当たり 医療施設従事医医師数	(R2) 200.0 人	(R8) 208.9 人以上	[R6.12 月末時点] 223.3 人
30 歳代までの 医療施設従事医師数	(R2) 1,920 人	(R8)　2,040 人以上	[R6.12 月末時点] 1,861 人
初期臨床研修医の マッチ者数	(R4) 169 人	(毎年) 181 人	[R7] 180 人
総合診療専門研修 採用専攻医数	(R5) 22 人	(R8)　46 人	[R7.4 月] 39 人
自治医大卒業医師 県内定着率	(R4 末) 70.9%	(R8)　75.0%	[R8.4 月現在]70.1%
ふるさとドクターネット広島 登録者数	(R4 末) 3,174 人	(R8)　3,519 人	[R8.3 月] 3,922 人
短時間正規雇用による 女性医師数（支援医師数）	(R4) 延 228 人	(R8) 延 228 人以上	[R8.3 末現在] 317 人

5　圏域ごとの医師数

区分		厚生労働省算定結果					参　考	
		医師偏在指標	現状値（標準化医師数）（2026 年）	確保すべき目標医師数（2029 年）	2026 年の医師偏在指標を維持するための医師数（2029 年）	目標と現状値との差	医師偏在指標の全国平均に達する医師数	全国平均と現状との差
		－	（ア）	（イ）	（ウ）	（ア）－（イ）	（エ）	（ア）－（エ）
三次保健医療圏（都道府県）		264.0	7,483	6,650	7,219	833		
二次保健医療圏	広島	310.4	4,077	2,517	4,032	1,560	3,466	611
	広島西	247.2	399	301	384	98	414	▲15
	呉	283.7	731	453	662	278	623	108
	広島中央	195.7	436	426	430	10	586	▲150
	尾三	217.6	558	457	513	101	629	▲71
	福山・府中	200.7	1,052	974	1,009	78	1,342	▲290
	備北	240.2	232	172	213	60	236	▲4

（ア）現状値：令和6年「医師・歯科医師・薬剤師統計」（厚生労働省）による圏域内医師数を基に、性・年齢階級別の平均労働時間による係数を乗じて算定（標準化）した医師数で、医師偏在指標の算定に用いられた人数（小数点以下の端数切捨て。）

（イ）確保すべき目標医師数：医師偏在指標の算定結果が、下位 33.3%の順位より上位（偏在指標：193.7）となる場合の医師数

（エ）最新の医師偏在指標における全国平均（266.8）に達する医師数。

目標値の考え方＜現行の医師確保計画からの継続＞

- 現状値が全国平均を上回っている２圏域（広島、呉）については、将来時点（2036 年）に至るまで「全国平均以上である現在の水準を維持すること」を目標とする。
- その他の５圏域（広島西、広島中央、尾三、福山・府中、備北）では、上記２圏域との偏在が計画を重ねるごとに改善に向かい、将来時点（2036 年）に至るまでに「全国平均に達する水準となる」ことを目標とする。